



# 総研大ニューズレター

第99号 2016.8発行

## ●目次

### 【今月のトピックス】

JSPS サマー・プログラム 2016 オリエンテーション

英語プレゼンテーション短期研修

プレスリリース

「チョウの複眼はどうできるか？

—複眼からみた色覚の変化」

国際・社会連携課

学融合推進センター

広報社会連携室

名誉教授称号記授与式

宇宙科学専攻「体験入学」と専攻説明会

ITパスポート研修

総務課

宇宙科学専攻

学術情報基盤事務室

### 【受賞情報】

### 【イベント情報】

主なイベント予定

9月2日

生命科学研究科 基礎生物学専攻 大学院説明会

9月7日-9日

学融合レクチャー「大統合自然史1（宇宙・地球編）」

9月28日

学位記授与式

## 【今月のトピックス】

### ● 『平成28年度 JSPS サマー・プログラム オリエンテーション』を開催

平成28年6月15日（水）、アメリカ合衆国、英国、フランス、ドイツ、カナダ及びスウェーデンの6カ国から博士号取得前後の若手外国人研究者（フェロー）が115名来日し、『平成28年度 JSPS サマー・プログラム』に参加しました。



開講式は総合研究大学院大学にて開催され、日本学術振興会の岩佐理事及び岡田学長の歓迎の挨拶で始まり、日本学術振興会や海外協力機関からも多くの関係者が出席されました。

成田からの道の渋滞により宿泊地である湘南国際村センターに、1時間ほど遅れて到着し、予定より30分ほど遅れての開講式となりました。フェロー達は少し疲労感がありましたが、開講式の後、湘南国際村センターにて行われた歓迎レセプションでは、本学教員や学生たちと歓談し、活発な国際交流・異文化交流が始まりました。



2日目は、最初の特別講義が開催されました。高エネルギー加速器科学研究科素粒子原子核専攻の磯暁教授より、“*Higgs and Nambu: Beyond the particle physics*” と題したレクチャーが行われ、講演後の質疑応答も活発に行われました。

特別講義の後には、本年度で第2回目となる総研大研究紹介及びグループディスカッションが行われました。総研大の様々な専攻から14名の教員にご協力頂き、総研大およびご本人の研究紹介を土台に、熱心に議論を行い、研究を通じた交流を深めました。

フェローは、あらかじめ希望に基づいて選択したグループに分かれて参加しました。また、並行して行われた「総研大生のための英語プレゼンテーション短期研修」に参加の12人の総研大生も加わりました。

ホームステイ中を除き連日日本語講座が行われ、日本語の基本からロールプレイング形式での実践的な会話まで、フェローのレベルにあわせた授業にみなさん熱心に取り組んでいました。

また、2日目に開催された日本文化紹介では、茶道・書道・折り紙・着付けを体験し、日本文化に触れながら多くのことを学ぶことが出来たと、参加したフェローにも大変好評でした。



3日目の17日午後のポスターセッションは、毎年好評であり、今年昨年より30分長く時間を設け、また、前日の12人の総研大学生や教職員も加わり、それぞれの研究テーマを越えた活発な議論が、休憩時間を惜しんで行われました。

梅雨の晴れ間に恵まれた週末には、日本家庭でホームステイを体験し、小田原城をはじめ鎌倉の大仏見学、魚釣り、音楽会などに行き、素晴らしい思い出を作りました。19日(日)夕方、フェローが帰着する頃に雨が降り出し、天候の幸運にも恵まれていました。ホームステイプログラム終了後のアンケートには、フェロー達が週末ホストファミリーと過ごした時間について、感謝と感動の言葉が綴られ、ホームステイが総研大でのオリエンテーションプログラムの魅力の一つであることをあらためて認識させられました。



20日(月)には、元東京藝術大学教授の安藤政輝先生の特別講義及び邦楽演奏がありました。安藤先生からは日本の伝統楽器についての説明の後に箏、尺八、三味線、十七弦を用いた6曲の楽曲の演奏がありました。講義の際には、安藤先生から箏の形を模した「聖護院八つ橋」がフェロー一人一人に配られました。最後の演目の演奏後には、なかなか鳴り止まない拍手から、彼らの大きな感動が伝わってきました。質疑応答の後、フェローが直に楽器に触れ、音を出してみる機会があり、壇上に用意された箏や三味線、尺八に触れてみたいというフェローが長い列を作りました。



オリエンテーション機関中は梅雨の季節にもかかわらず、富士山の景色を湘南国際村から望むこともでき、フェロー達は1週間のプログラムを終え、全国各地の受入機関に向け旅立っていきました。8月23日の報告会では、2ヶ月間の研究活動を終えた彼らがどんな成果を報告してくれるか今から楽しみです。それぞれの機関で精力的に研究活動に従事することにより、彼らのエネルギーが日本の大学教育および学术交流の国際化を促進することを期待しています。

【国際交流係】

## ● 総研大生のための英語プレゼンテーション短期研修

6月15日～17日、総研大葉山キャンパスにおいて、「総研大生のための英語プレゼンテーション短期研修(SOKENDAI Students' Seminar on English Presentation Skills)」を開催しました。これは、研究の魅力を英語でアピールする実践的能力の獲得を目的としたもので、今年度は、国立遺伝学研究所よりゴルマン先生を講師としてお迎えし、2日間にわたり講義をいただきました。

毎年、総研大は、独立行政法人日本学術振興会(JSPS)との共催にて、「JSPSサマー・プログラム」のオリエンテーション等を実施しています。本プログラムは、米国、英国、フランス、ドイツ、カナダ及びスウェーデン6カ国の博士号取得前後の研究者に対し、夏期2ヶ月間に、大学等研究機関における共同研究の機会を提供するものです。来日後1週間は、100名を超える若手研究者(JSPSフェロー)が、湘南国際村センター(葉山)に一堂に会し、日本語研修、ホーム





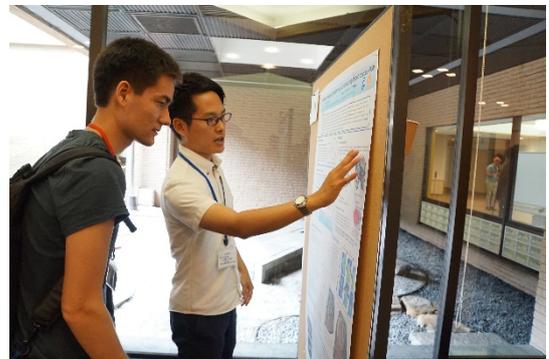
ステイ等のオリエンテーションに参加します。

「英語プレゼンテーション短期研修」は、この JSPS サマー・プログラムの機会に併せて企画され、受講学生は、オリエンテーションの一連の行事「グループディスカッション」や「ポスタープレゼンテーション」にも加わり、英語で自身の研究を紹介する等、実践的な機会に挑戦します。

ゴルマン先生の講義では、主に「ポスタープレゼンテーション」に向けて、効果的なプレゼンテーションの

方法から、ポスターのデザイン、質問への答え方まで、様々な指導が行われました。

「英語プレゼンテーション短期研修」は、この JSPS サマー・プログラムの機会に併せて企画され、受講学生は、オリエンテーションの一連の行事「グループディスカッション」や「ポスタープレゼンテーション」にも加わり、英語で自身の研究を紹介する等、実践的な機会に挑戦します。ゴルマン先生の講義では、主に「ポスタープレゼンテーション」に向けて、効果的なプレゼンテーションの方法から、ポスターのデザイン、質問への答え方まで、様々な指導が行われました。



「英語のスキルアップを図りたい」「国際学会に向けて練習したい」「自身の研究を英語でまとめる良い機会と思ったので」といった理由から、今年度は 12 名の学生の参加がありました。異なる専門分野（基盤出身）であるにもかかわらず、互いのポスタープレゼンテーションに対して率直な意見やアドバイスを交換することで、「目から鱗」の発見があり、基盤を越えたネットワークの構築にもつながったようです。「本番」の JSPS フェローとのポスタープレゼンテーションにおいても積極的に質問するなど、大胆かつ自由に対話、交流を深められたようです。これからの研究生生活において、この経験が十分に活かされることを期待したいと思います。



(本研修は、昨年まで「国際コミュニケーション」として開催していましたが、今年度より名称を変更しました。)



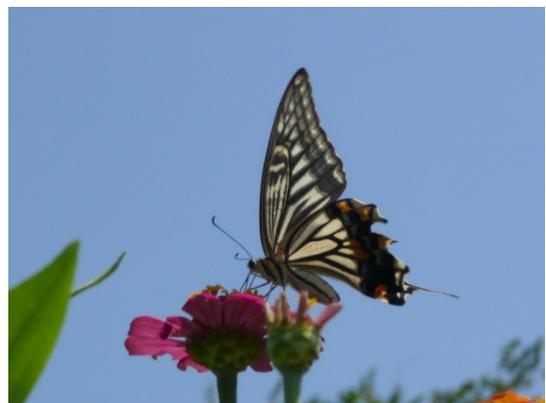
【学融合推進センター助教 内川明佳】

## ● プレスリリース

### 「チョウの複眼はどうできるのか？-複眼からみた色覚の進化」

#### 【概要】

花を求めて飛ぶチョウ類は、昆虫の中でも特に優れた色覚をもっています。その色覚を支えているのが、複眼の中にあつて様々な色に感度をもった視細胞（光受容細胞）です。花に來ない昆虫に比べるとその種類も配列も、非常に複雑です。今回、アゲハの複眼で視細胞の感度と配列がどう決まるかを、光受容物質（視物質）とその発現を調節する因子のはたらきを調べることで明らかにしました。その結果、視細胞の配列は基本的にはショウジョウバエと同じメカニズムで決まっているが、重要な遺伝的信号を作る細胞がアゲハでは一つ多く、これがより複雑な複眼を作り出す鍵である、ということが分かりました。本学先導科学研究科の蟻川謙太郎教授と木下充代講師が、ニューヨーク大学との共同研究で明らかにしたこの成果は、7月7日2時（日本時間）に、イギリスの科学雑誌Nature（Online版）に掲載されます。



#### 【論文全著者】

Michael Perry（ニューヨーク大学 生物学部 研究員）  
Michiyo Kinoshita（総合研究大学院大学 先導科学研究科 生命共生体進化学専攻 講師）  
Giuseppe Saldi（ニューヨーク大学 アブダビ校 研究員）  
Lucy Huo（ニューヨーク大学・生物学部 研究員）  
Kentaro Arikawa（総合研究大学院大学 先導科学研究科 生命共生体進化学専攻 教授）  
Claude Desplan（ニューヨーク大学 生物学部 教授）

### 【論文原題】

Molecular logic behind the three-way stochastic choices that expand butterfly colour vision

詳細については、下記URLをご覧ください。 <http://www.soken.ac.jp/news/29193/>

※特に総研大在学生在が筆頭著者として研究論文を出版する際、プレスリリースを行う場合は、総研大と所属専攻（基盤機関）との共同プレスリリースを行っておりますので、是非総研大広報社会連携室までご連絡ください。

【広報社会連携室】

### ● 名誉教授称号記授与式

平成 28 年 6 月 21 日（火）、葉山キャンパス共通棟 3 階会議室において、総合研究大学院大学名誉教授称号記授与式が挙行されました。

授与式には 9 名の方が出席され、役員列席のもと岡田学長より一人一人に名誉教授称号記が手渡され、長年にわたる総研大の教育・研究への貢献に対し、感謝の言葉が述べられました。

式典後の懇談会では、終始和やかに歓談が行われ、その後、葉山キャンパス内の学融合推進センター及び、先導科学研究科を見学されました。



【総務課】

### ● 宇宙科学専攻「体験入学」と専攻説明会

物理科学研究科は、新入生獲得のための活動の一環として、各専攻の研究内容・研究環境について知ってもらうことを目的とした「夏の体験入学」を実施している。宇宙科学専攻では、例年教員による研究紹介講義という形式で実施している。今年度は、6月9日(木)～11日(土)に実施した。

宇宙科学専攻の母体である JAXA 宇宙科学研究所は、理学・工学の研究者が協力して宇宙科学研究を進める組織である。従って宇宙科学専攻には幅広い分野の研究者が在籍しており、本プログラムの講師選定は毎年頭を悩ますところである。分野のバランスを考慮しつつ、その年のホットトピックについてお話しいただける総研大教員を、現役大学院生の意見なども参考にリストアップし、講義を依頼している。

本年度のプログラムは、下記のとおりであった。

2016年6月9日(木) 16:30~19:00

『ソーラー電力セイルの展開挙動の解析』

森 治 助教

『小型ロケットを用いた超高層大気科学の研究』

阿部 琢美 准教授

2016年6月10日(金) 16:30~19:00

『はやぶさ2などの深宇宙探査を支えるイオンエンジン』

西山 和孝 准教授

『衛星システムアーキテクチャと電波・画像センシング』

福田 盛介 准教授

2016年6月11日(土) 10:00~12:30

『惑星気象学を切り拓く「あかつき」金星探査：その最新成果』

佐藤 毅彦 教授

『ジオスペース探査衛星(ERG)が探るジオスペースの世界』

篠原 育 准教授

各講師とも単なるご自分の研究紹介・プロジェクト紹介だけではなく、どのように課題にアプローチするのか、また研究者としての心構えなど、総研大進学を考える学生に対応した内容を考慮いただき、受講者にとって大きなインパクトを与えたことと思う。また、講義には宇宙研で研究をしている大学院生が参加しており、講義終了後には、進学希望者と在学生による自主的な懇談会も行われた。



6月11日(土)の午後には、本プログラムと連動する形で専攻の進学説明会を実施した。ここでは、学生のサポート体制や、在学生・卒業生による実際の研究の進め方の紹介など、進学後の生活をイメージできるような具体的な内容を中心に説明した。所内見学を挟んで、自由討論では教員・在学生に対して個別のアドバイスを求める参加者との間で、予定時間を大きく超過して対話が行われた。

本年度はのべ19名(専攻説明会を含めるとのべ29名)の参加があった。学部4年生がやはり多いが、学部1~3年生や社会人が半数以上を占めた。4年生が、入試や奨学金制度など具体的な情報を求めていたのに対し、学部1~3年生については、自分の夢を実現するためには、



どのような研究室が向いているのか、またどのようにアプローチすれば良いのか、などの進路相談が中心で、より早い時期から自分の進路に対して真剣に考えるようになってきていることが感じられた。

事後に実施した参加者のアンケートによれば、講義は概ね好評であった。また、現役学生との講義終了後や専攻説明会での懇談が、大学院生活の実際を具体的に考える上で非常に参考になったとの声があった。一方、課題としてはより若い参加者が増えたことに対して、進路の可能性を広く提示

すること(すなわち、体験入学講師だけでなく宇宙科学研究所全体の研究を概観できるようにすること)、より多くの教員と進学希望者の対話の機会を作ることである。また、研究紹介講義に加えて、インターン的な実習の機会をもうけるなど今後さらに効果的な体験学習プログラムにするため、改善を検討していきたい。

最後に、ご協力いただいた関係各位にお礼申し上げる。本イベントが、宇宙科学専攻のこ

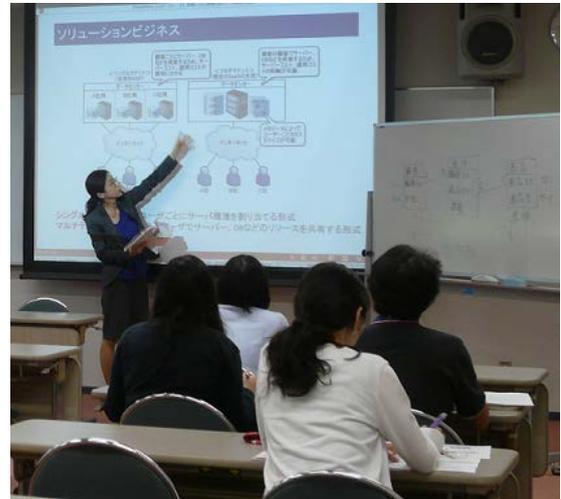
とを深く知る機会となり、強い動機を持った進学希望者が増えることに寄与することを願う。  
【宇宙科学専攻 准教授 山村一誠】

## ● ITパスポート試験対策研修の実施

7月4日の開講を皮切りに、全5回のITパスポート試験対策研修が始まりました。ITパスポートは、ITに関する基礎知識を証明できる国家試験であり、その名には「社会で活躍するためのパスポート」という思いが込められています。IT技術・管理から経営全般に関する知識、昨今の情報セキュリティに至るまで、学習範囲は幅広い分野に及びますが、要点を押さえた講義が射場雅代先生によって進められています。

これまでに、当研修受講生から7名の方がITパスポート試験に合格されています。今回で研修も3年目、結実の年ともいいますので、今年度12名の受講生中、かなりの方が合格されるのではないのでしょうか。

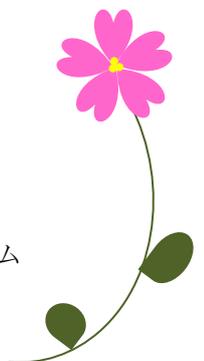
受講生の皆様には、当研修で得たスキルを元に効果的にITを活用していただき、業務の遂行に役立てていただくことを期待しています。



【文責 学術情報基盤事務室】

# 受賞

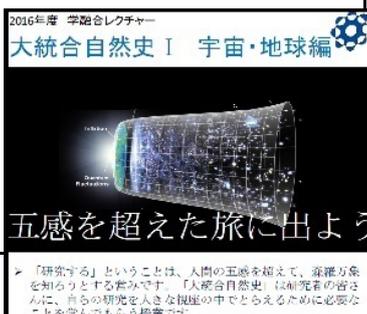
- 文化科学研究科 比較文化学専攻 關雄二 教授  
「外務大臣表彰」 受賞
- 物理科学研究科 天文科学専攻 原弘久 准教授  
大和日英基金 「DAIWA Adrian Prize for Scientific Collaboration」 受賞
- 複合科学研究科 統計科学専攻 栗木哲 教授  
「第21回 日本統計学会賞」 受賞
- 複合科学研究科 統計科学専攻 藤澤洋徳 教授  
「第10回 日本統計学会研究業績賞」 受賞
- 複合科学研究科 極域科学専攻  
菅沼悠介 助教、堀江憲路 助教、海田博司 助教、川村賢二 准教授ら  
日本地質学会 「小藤文次郎賞」 受賞
- 複合科学研究科 情報学専攻 Yu Mao さん、Cheung Gene 准教授、計 宇生 教授らのチーム  
12th IEEE IVMSWP Workshop 2016 (にて「Best Student Paper Award」 受賞



## 【イベント情報】

### ●総研大の行事

9月

開催日	時間帯	イベント名称・開催場所	参考URL
2日(金)	13:00-17:30	生命科学研究科 基礎生物学専攻 大学院説明会 場所：基礎生物学研究所 明大寺地区	
7日(水) -9日(金)		学融合レクチャー「大統合自然史1(宇宙・地球編)」 担当：鎌田 進(学融合推進センター長) 大石 雅壽(天文科学専攻 准教授) 伊村 智(極域科学専攻 教授) 東 久美子(極域科学専攻 教授) 外田 智千(極域科学専攻 准教授) 神山 崇(物質構造科学専攻 教授) 開催場所：高エネルギー加速器研究機構 JAXA筑波宇宙センター 産業技術総合研究所 地質標本館	http://www.soken.ac.jp/event/20160725/ 
28日(水)	12:50-14:50	学位記授与式 場所：葉山キャンパス	「研究する」ということは、人間の五感を越えて、森羅万象を知ろうとする営みです。「大統合自然史」は研究者の皆さんに、自らの研究を大きな視座の中であらえるための必要なことを学んでもらう授業です。

### ●基盤機関の行事

9月

開催日	時間帯	イベント名称・開催場所	参考URL
開催中 -12月17日 (土)	10:00-16:30	通常展示「書物で見る日本古典文学史」 国文学研究資料館 展示室	http://www.nijl.ac.jp/pages/event/exhibition/2016/bungakushi.html
開催中 -9月13日(火)	10:00-16:30	松代藩・真田家のアーカイブズ 国文学研究資料館 展示室特設コーナー	http://www.nijl.ac.jp/pages/event/exhibition/2016/sanada.html
3日(土)	13:15-	4D2U定例公開「KAGUYA's Moon」 国立天文台三鷹キャンパス	https://prc.nao.ac.jp/4d2u/
9日(金)	13:15-	4D2U定例公開 「アストロノマー・トーク かぐやの月世界旅行」 国立天文台三鷹キャンパス	https://prc.nao.ac.jp/4d2u/
9日(金)	16:30-17:30	市民公開講座 第110回分子科学フォーラム 「クモ糸から始まる素材革命」 場所：岡崎コンファレンスセンター	https://www.ims.ac.jp/research/seminar/2016/09/09_3495.html
9日(金)	19:30-	国立天文台三鷹 定例観望会 <観望天体：はくちょう座β星 アルビレオ> 国立天文台三鷹キャンパス	https://prc.nao.ac.jp/stargazing/
10日(土)	13:00-15:00	第391回歴史博講演会「お盆の歴史と民俗」 国立歴史民俗博物館 講堂	http://www.rekihaku.ac.jp/events/lecture/index.html
10日(土)	13:15-	4D2U定例公開「KAGUYA's Moon」 国立天文台三鷹キャンパス	https://prc.nao.ac.jp/4d2u/
10日(土)	13:30-16:30	ひので衛星10周年記念講演会 「太陽観測から宇宙と地球を探る」 名古屋大学 東山キャンパス 坂田・平田ホール	http://www.nao.ac.jp/news/notice/2016/20160711-hinode-lecture.html
12日(月) -17日(金) (予定)		すばる望遠鏡・観測研究体験企画 国立天文台ハワイ観測所	http://optik2.mtk.nao.ac.jp/ws/subaru_obs_school16.html

13日(火)	14:00-16:00	第303回日文研フォーラム 「変容するヤマト-『古事記』の「天皇」を考える」 ハートピア京都 大会議室	<a href="http://events.nichibun.ac.jp/ja/">http://events.nichibun.ac.jp/ja/</a>
14日(水)	14:00-16:30	第63回日文研学術講演会 国際日本文化研究センター内講堂	<a href="http://events.nichibun.ac.jp/ja/">http://events.nichibun.ac.jp/ja/</a>
9月15日(木) -10月25日 (火)	10:00-16:30	片仮名本と平仮名本 国文学研究資料館 展示室特設コーナー	
17日(土)	13:00-16:00	第102回歴博フォーラム「『延喜式』って何!？」 国立歴史民俗博物館 講堂	<a href="http://www.rekihaku.ac.jp/events/forum/index.html">http://www.rekihaku.ac.jp/events/forum/index.html</a>
17日(土)	13:15-	4D2U定例公開「KAGUYA's Moon」 国立天文台三鷹キャンパス	<a href="https://prc.nao.ac.jp/4d2u/">https://prc.nao.ac.jp/4d2u/</a>
21日(水)	11:30-12:15	ギャラリートーク 国文学研究資料館 展示室	<a href="http://www.nijl.ac.jp/pages/event/exhibition/2016/bungakushi.html">http://www.nijl.ac.jp/pages/event/exhibition/2016/bungakushi.html</a>
24日(土)	13:30-15:30	第209回くらしの植物苑観察会 「水環境安全に果たす水草の役割」 国立歴史民俗博物館 くらしの植物苑	
24日(土)	19:30-	国立天文台三鷹 定例観望会 <観望天体：M57 環状星雲> 国立天文台三鷹キャンパス	<a href="https://prc.nao.ac.jp/stargazing/">https://prc.nao.ac.jp/stargazing/</a>



## 【編集後記】

総研大ニューズレター第99号をお届けします。今月のトピックスにありましたITパスポート試験対策研修に私も参加していました。全5回の研修を終えましたので、ITパスポート試験を受けたいと思います。

今月号は“第99号”ですよ。記念すべき100号まで、あと一歩です。来月号は休刊いたしますが、トピックスの原稿をご寄稿いただけましたら、総研大ニューズレターへ掲載いたします。総研大関係のイベント、受賞情報等ありましたら、是非とも広報社会連携室まで情報をお寄せください。

広報社会連携室 E・A

広報社会連携室では、メディアを通じて総研大の研究成果を広く社会に発信しています。特に、総研大在学生在が筆頭著者として研究論文を出版する際、プレスリリースを行う場合は、総研大と所属専攻（基盤機関）との共同プレスリリースを行っておりますので、是非総研大広報社会連携室までご連絡ください。

各専攻の学生・担当教員の「メディア出演」、「受賞・表彰」および「地域社会と連携・密着したアウトリーチ活動等の社会連携・貢献活動」についてニューズレター、ウェブ掲載等により発信しておりますので、各種情報を是非お寄せください。

研究論文を投稿する場合や、メディア等に出演される場合は、「総合研究大学院大学」と表記いただきますよう、総研大の知名度向上にご協力をお願いいたします。

発行 2016年8月31日  
編集



国立大学法人

**総合研究大学院大学**

SOKENDAI (THE GRADUATE UNIVERSITY FOR ADVANCED STUDIES)

神奈川県三浦郡葉山町（湘南国際村）

広報社会連携室

TEL 046-858-1590 / FAX 046-858-1632

Email kouhou1(at)ml.soken.ac.jp

※(at)は@に変換してください。

©2016SOKENDAI